滑石小学校　学びのスタンダード

主体的・対話的で深い学びの実現

（「主体的な学び」の視点）

- ○　児童の学習課題の把握や解決への見通し
- ○　動機付けや方向性の提示の工夫
- ○　振り返りの場面の設定
- ○　表現活動の促し

（「対話的な学び」の視点）

- ○　グループ（子ども同士、教師）における話合い・活動内容の充実
- ○　自分自身との対話（記録、感想、ノート　等）
- ○　実社会の人々からの聞き取り、フィールドワーク
- ○　ICT の効果的な活用

（「深い学び」の視点）

- ○　追究の視点の明確化と課題の設定
- ○　資料等を基にした考察
- ○　課題解決に向けた選択・判断
- ○　論理的な説明、議論

単元など内容や時間のまとまりを見通した**「めあて」を設定**し、**「見方・考え方」を働かせる**ことで、事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を**考察したり**、課題を把握してその解決に向けて**構想したり**する授業

そこで日々の授業の中で

- ○　発言を引き出し、**子どもが語り合う場面**を増やす。
- ○　気付き、考え、感想・・・**ノートやワークシート等に記述**させ、今後の学習に生かせるようにする。
- ○　**教師の話をできるだけ減らし**、子ども自身がしっかり学びと向き合う時間を確保する。
- ○　１５の春（中学卒業時）に希望が叶うように、**「気付くまで」「できるまで」「わかるまで」の学習指導を徹底**していく。

授業の流れ

自学（家庭学習）、既習事項、社会での実体験

授　業

① 学習課題の把握と解決に向けた見通し （めあて）

※ ３人発表

児童の言葉から

② 課題解決のための追究 （学習活動）

- 言語活動
- 観察・実験
- 問題解決学習　　等

○グループなどで対話する場面
○児童が考える場面
○教師が教える場面

→教師の組立て

③ 学習評価の充実 （まとめ）→基礎的・基本的技能の確実な習得

言語活動を設定

④ 学習の成果を自己分析する （ふりかえり）

◎ 生きて働く「知識・技能」の習得
◎ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
◎ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

滑石小1年生　学力向上プラン（国語）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲が高い児童が多い。
・文章の中で、「促音」「長音」「拗音」「は、を、へ」を正しく使えていない児童が6割程度いる。
・問題文の的確な把握ができていない児童が学年で4割程度いる。
・宿題の丸付けや家庭学習の見守りなど、保護者が協力してくれている。

＜取り組むべき課題＞

・教師や友達の話を最後までしっかり聞くこと。
・教科書の視写や黒板の文字やをノートに正しく写すこと。
・発表の時の声の大きさ（教室の後ろまで届く声で）と、自信を持って自分の考えを話すこと。
・身の回りで起こった出来事について、3文程度の日記を書くこと。
・何を聞かれ、どのように答えるのか、きちんと理解すること。
・平仮名や片仮名、漢字を正しく読んだり書いたりすること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、机間指導で児童のノートをチェックしたり、全員でめあてを読んだりする。
・自分自身の学びを振り返るために、単元の最後に「分かったことや思ったことなどをノートに書く」振り返りの時間を設定する。
・聞く姿勢を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けをする。
・ノートの決まりを常時指導する。（「めあては青・まとめは赤」ではさむなど）
・友達の考えと自分の考えを比べながら発表できるような「話型指導」をする。
・「筆箱の中身を統一」する。（鉛筆5本・消しゴム・赤青鉛筆・定規・ネームペン）

②スキルタイムでは

・「片仮名確認テスト」や「漢字スキル確認小テスト」に取り組み、既習の片仮名や漢字の書き取りが身に付いているか、児童自身にも確認させる。読み書きができなかった片仮名や漢字は、「その場でやり直し」をする。

③家庭学習では

・「漢字ノート練習の手本プリント」を配布し、手本を見ながら毎日漢字を練習に取り組む。
・短い物語文や説明文のプリントを週末や日記を週末に取り組む。
・児童の日記を学級で紹介し、「友達の書き方でよいと思ったところを見つける」ことにより、これからの自分の日記にも生かしていくことができるようにする。
・促音、長音、拗音などプリントを使って反復学習をさせる。

④その他の時間を使って

・隙間時間に読書をさせ、文字を読む機会を増やす。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、ほとんどの児童の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤ではさむなど）
・友達の話をしっかり聞き、自分の考えをしっかり発表することができるようになる。
・身近に起こった出来事について、文字や文法を正しく使って70字程度にまとめて書くことができるようになる。
・音読の際、文字をすらすら読むことができる。

滑石小1年生　学力向上プラン（算数）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲があり、学ぶ習慣をほとんどの子どもが身に付けている。
・問題文の的確な把握ができない児童が学年で3割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かる児童が学年で4割程度いる。
・宿題の丸付けや家庭学習の見守りなど、保護者が協力している。

＜取り組むべき課題＞

・最後まで諦めずに粘り強く学習に取り組もうとする態度。
・黒板の文字をノートに早く、正しく写すこと。
・既習計算の確実な習得。
・問題文をしっかり読み、何について答えるのかきちんと理解すること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、机間指導で児童のノートをチェックしたり、全員でめあてを読んだりする。
・ノートの決まりを常時指導する。（「めあては青・まとめは赤」で囲むなど）
・問題文を読み、「分かっている数字には○」「尋ねられていることには波線」を引くなどして、問題文をしっかり把握できるようにする。
・「既習事項を使って課題解決できないか、しっかり見通しを立てさせた上で」自分の考えをノートに書かせる。
・友達に分かるように説明するために、はじめに・次になどの言葉を使って説明できるようにする。

②スキルタイムでは

・「既習計算プリント」に取り組み、既習計算が身に付いているか、児童自身にも確認させる。間違えた計算は「その場でやり直し」をさせる。

③家庭学習では

・学習進度に合わせた算数プリントやドリルを毎日を配布し、学校で学んだことをがしっかり身に付くよう家庭で復習する。
・計算カードを毎日取り組ませ、速く、正確に計算できるようにする。

④その他の時間を使って

・家庭で取り組んだプリントで間違いがあった問題は、やり直しをさせる。
・低位の児童には、昼休みなどの時間を使って「個別に指導」する。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、ほとんどの児童の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤で囲むなど）
・問題文を読み、分かっている数字には○、尋ねられていることには波線が自分で引けるようになる。
・問題文の言葉に注目し、正しい立式をほとんどの児童ができるようになる。

滑石小2年生　学力向上プラン（国語）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲があり、学ぶ習慣を身に付けている児童と、そうでない児童の差が大きい。
・文章を書くことに苦手意識がある児童が学年で1割程度いる。
・問題文の的確な把握ができていない児童が学年で2割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かる児童が学年で2割程度いる。
・漢字学習には意欲的に取り組む児童が多いが、そうでない児童が数名いる。
・宿題の丸付けや家庭学習の見守りなど、保護者が協力している。

＜取り組むべき課題＞

・教師や友だちの話を最後までしっかり聞くこと。
・ノートを順番に使って書くこと。
・発表の時の声の大きさ（教室の後ろまで届く声で）と、自信を持って自分の考えを話すこと。
・身の回りで起こった出来事について、会話文や気持ち、順序を表す言葉を使って日記を書くこと。
・何を聞かれ、どのように答えるのか、きちんと理解すること。
・既習漢字を正しく読んだり書いたりすること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定（できれば児童の言葉で）をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、机間指導で児童のノートをチェックしたり、全員でめあてを読んだりする。
・自分自身の学びを振り返るために、本時の学習で「分かったことや思ったことなどをノートに書く」時間を設定する。
・聞く姿勢を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けする。
・ノートの決まりを常時指導する。（「めあては青・まとめは赤」ではさむなど）
・友達の考えと自分の考えを比べながら発表できるような「話型指導」をする。
・自分の考えをグループの「友達に伝えあい、その後全体で共有」するという流れで自分の考えを自信を持って発表できるようにする。
・「筆箱の中身を統一」する。（鉛筆5本・消しゴム・赤青鉛筆・定規・ネームペン）

②スキルタイムでは

・「漢字スキル確認小テスト」に取り組み、既習漢字の書き取りが身に付いているか、児童自身にも確認させる。読み書きができなかった漢字は、「その場でやり直し」をする。
・月に1度、「子ども新聞記事を読んで思ったことを文章で表現」する活動を行う。

③家庭学習では

・手本を見ながら週に4日練習する。
・漢字書き取りプリントを何枚も印刷し、何度も同じ問題に取り組ませる。
・短い物語文や説明文は、「暗唱を目指して日々の音読練習」に取り組むようにする。
・「週末日記」では、「自分の身近な出来事について会話文や気持ち・順序を表す言葉を使って書く」ようにする。
・児童の日記を学級で紹介し、「友達の書き方でよいと思ったところを見つける」ことにより、これからの自分の日記にも生かしていくことができるようにする。

④その他の時間を使って

・隙間時間に読書をさせ、文字を読む機会を増やす。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤ではさむなど）
・友達の話をしっかり聞き、友達と自分の考えの相違点をしっかり発表することができるようになる。
・身近に起こった出来事について、会話文や気持ちを入れながら、200字程度にまとめて書くことができるようになる。

滑石小2年生　学力向上プラン（算数）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲があり、学ぶ習慣を身に付けている児童と、そうでない児童の差が大きい。
・既習計算の仕方を忘れていたり、できなかったりする児童が、学年で2割程度いる。
・問題文の的確な把握ができない児童が学年で3割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かる児童が学年で3割程度いる。
・宿題の丸付けや家庭学習の見守りなど、保護者が協力してくれている。

＜取り組むべき課題＞

・最後まで諦めずに粘り強く学習に取り組もうとする態度。
・ノートを順番に使って書くこと。
・既習計算の確実な習得。
・問題文をしっかり読み、何について答えるのかきちんと理解すること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、机間指導で児童のノートをチェックしたり、全員でめあてを読んだりする。
・本時の学習で「分かったことやもっと知りたいと思ったことなどをノートに書く」時間を設定する。
・ノートの決まりを常時指導する。（「めあては青・まとめは赤」ではさむなど）
・問題文を読み、「分かっている数字には○」「尋ねられていることには波線」を引くなどして、問題文をしっかり把握できるようにする。
・「既習事項を使って課題解決できないか、しっかり見通しを立てさせた上で」自分の考えをノートに書かせる。
・友達に分かるように説明するために、はじめに・次になどの言葉を使って各自ノートにまとめさせる。
・自分の考えを、図と言葉を関連させながら説明できるよう補助する。

②スキルタイムでは

・「既習計算プリント」や「10ます計算」に取り組み、既習計算が身に付いているか、児童自身にも確認させる。間違えた計算は「その場でやり直し」をする。

③家庭学習では

・学習進度に合わせた算数プリントを毎日を配布し、学校で学んだことがしっかり身に付くよう家庭で復習する。

④その他の時間を使って

・家庭で取り組んだプリントで間違いがあった問題は、「学校でもう一度」取り組ませる。
・低位の児童には、昼休みなどの時間を使って「個別に指導」する。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤ではさむなど）
・問題文を読み、分かっている数字には○、尋ねられていることには波線が自分で引けるようになる。
・問題文の言葉に注目し、正しい立式を学級全員ができるようになる。

滑石小3年生　学力向上プラン（国語）

＜傾向と実態＞

・学ぶ習慣を身に付けている児童とそうでない児童の差が大きい。
・文章を書くことに苦手意識がある児童が学年で2割程度いる。
・問題文の的確な把握ができていない児童が学年で3割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かったり、雑に読み取ったりする児童が学年で3割程度いる。
・漢字学習には意欲的に取り組む児童が多いが、そうでない児童が2割程度いる。
・宿題の丸付けや家庭学習の見守りなど、協力している保護者も多い。

＜取り組むべき課題＞

・教師や友達の話を最後までしっかり聞くこと。
・ノートに自分の考えを書くこと。
・発表の時の声の大きさ（教室の後ろまで届く声で）と、自信を持って自分の考えを話すこと。
・話の中心を意識しながら話したり聞いたり読んだり書いたりすること。
・既習漢字を正しく読んだり書いたりすること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定（できれば児童の言葉で）をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、全員でめあてを読んだり授業の途中で確認をしたりする。
・自分自身の学びを振り返るために、本時の学習で「なぜ解決できたのか」「学んだことを使えるのか？（練習問題）」「感想」などをノートに書いたり、発表したりする。
・聞くときの視点を指導し、話の中心を意識しながら聞くようにする。
・ノートに自分の考えを書く場面を増やしていく。
・自分の考えをグループの「友達に伝えあい、その後全体で共有」するという流れで自分の考えを自信を持って発表できるようにする。

②スキルタイムでは

・「漢字スキル」の確認小テストに取り組み、既習漢字の書き取りが身に付いているか、児童自身にも確認させる。読み書きができなかった漢字は、やり直しをする。
・月に1度、「子ども新聞記事を読んで思ったことを文章で表現」する活動を行う。

③家庭学習では

・漢字スキルを活用し、毎日、漢字の練習する。
・音読を毎日行い、分からない言葉を調べるなどして語彙を増やす。
・週末は、日記に取り組ませ、書く力の向上を図る。

④その他の時間を使って

・自分の身近に起こった出来事について、会話文やその時の気持ちなどを入れて、学級の友達に伝える経験を積む。
・話すことに苦手意識がある児童は、友達の発表をまねさせたり、教科書の例示をまねさせたりする。

⑤目指す児童の姿

・授業開始時刻とともに、学習を始めることができる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤で囲むなど）
・友達の話を最後まで集中して聞き、話の中心を意識しながら聞くことができるようになる。
・教科書の例示を参考にしながら、自分の考えを書くことができるようになる。

滑石小 3年生 学力向上プラン（算数）

＜傾向と実態＞

・学ぶ習慣を身に付けている児童とそうでない児童の差が非常に大きい。
・問題文の的確な把握ができていない児童が学年で3割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かったり、読み取りが雑だったりする児童が学年で3割程度いる。
・宿題の丸付けや家庭学習の見守りなど、協力してくれている保護者もいる。

＜取り組むべき課題＞

・最後まで諦めずに粘り強く課題を思考しようとする態度。
・ノートの書き方を自分なりに工夫しながら書くこと。
・既習計算の確実な定着。
・問題文をしっかり読み、文意を理解すること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定（できれば児童の言葉で）をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、全員でめあてを読んだり授業の途中で確認をしたりする。
・自分自身の学びを振り返るために、本時の学習で「なぜ解決できたのか」「学んだことを使えるのか？（練習問題）」「感想」などをノートに書いたり、発表したりする。
・問題文を読み、分かっている数字や尋ねられていることに印を付けるなどして、問題文をしっかり把握できるようにする。
・「既習事項を使って課題解決できないか、しっかり見通しを立てさせた上で」自分の考えをノートに書かせる。
・友達に分かるように説明するために、はじめに・次になどの言葉を使って発表させる。
・自分の考えを図と言葉を関連させながら、説明できるようにする。

②スキルタイムでは

・算数プリントに取り組み、既習計算が身に付いているか、児童自身にも確認させる。
・テストやプリントのやり直しをする。
・「キュビナ」に取り組み、自分自身の力を確かめさせる。

③家庭学習では

・学習進度に合わせた課題を毎日出し、学校で学んだことがしっかりと身に付くようにする。

④その他の時間を使って

・家庭で取り組んだ宿題プリントで間違いがあった問題は、やり直しをするようにする。
・自主学習の中で、算数の学習で良い取組をしている児童の取り組みを紹介し、学習の方法を広げられるようにする。

⑤目指す児童の姿

・授業開始時刻とともに、学習を始めることができる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤で囲むなど）
・問題文を読み、分かっている数字や尋ねられていることに印を付けられるようになる。
・図や言葉などを使って、自分の考えをノートに書いたり全体で説明したりすることができる。
・既習計算の確実な定着を目指し、課題を時間内で解けるようになる。

滑石小4年生　学力向上プラン（国語）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲をもって課題に取り組む児童がいるが、そうではない児童が2割程度いる。
・教科書の文章をすらすらと読むことができない児童が1割程度いる。
・教科書の文章について、内容を読み取るのに時間が掛かる児童が2割程度、正確な読み取りができない児童が3割程度いる。
・文章を書くことに苦手意識がある児童は2割程度いる。
・自分の考えを発表するときに初めに結論から述べて、次に理由を挙げるなどわかりやすい発表ができる児童は1／3程度いる。
・漢字学習には意欲的に取り組む児童が多いが、そうでない児童が1割程度いる。
・進出漢字の定着が難しい児童が1割程度いる。
・進んで読書に取り組む児童が多いが、学年に合った内容ではなかったり、物語をあまり読まなかったりする児童が2割程度いる。

＜取り組むべき課題＞

・教科書の文章をすらすらと読むこと。
・意味が分からない言葉を国語辞典で、素早く調べること。
・身の回りで起こった出来事について、会話文や気持ち、順序を表す言葉を使って話したり書いたりすること。
・課題について自分の意見を結論から発表したり、書いたりすること。
・学年相応の読書内容を目指すとともに、分野の幅を広げること。
・文字数の制限がある文章を書くこと。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定をする。
・自分自身の学びを振り返るために、本時の学習で分かったことや思ったことなどをノートに書く「ふりかえり」の時間を確保する。
・聞く姿勢を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けをする。
・友達の考えと自分の考えを比べながら聞くようにする。
・自分の考えをグループ内で発表し合うことで、自分の考えに自信を持って発表できるようにする。
・単元のまとめなどで、文字数制限のある文章を書く。

②スキルタイムでは

・漢字の学習に取り組み、新しい漢字の書き方を身に付けさせる。読み書きができなかった漢字は、「その場でやり直し」をする。
・「キュビナ」に取り組み、自分自身の力で確かめさせる。

③家庭学習では

・漢字ドリルの手本を見ながら漢字ノートに練習するよう繰り返し指導する。
・短い物語文や説明文は、「暗唱を目指して日々の音読練習」に取り組むようにする。
・児童の自主学習の取組を学級で紹介し、「友達の取組み方でよいと思ったところを見つける」ことにより、これからの自分の学習にも生かしていくことができるようにする。

④その他の時間を使って

・新聞の中から心に残った記事についての感想を2文以上書くことで、自分が思ったことを文章で表現する活動を重ねる。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートのきまりに沿って書くことができるようになる。
・友達と自分の考えの相違点を考えながら友達の話を聞き、発表することができるようになる。
・課題について自分の意見を結論から発表したり、150 字程度にまとめて書いたりすることができる。

滑石小4年生　学力向上プラン（算数）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲があり、学ぶ習慣を身に付けている児童と、そうでない児童の差が大きい。
・既習計算の仕方を忘れていたり、できなかったりする児童が、学年で１割程度いる。
・問題文の的確な把握ができない児童が学年で2割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かる児童が学年で2割程度いる。
・かけ算九九の習得が不十分な児童が１割程度いる。
・自分の考えを図などを使って分かりやすく伝えることは苦手な児童が多い。

＜取り組むべき課題＞

・最後まで諦めずに粘り強く学習に取り組もうとする態度。
・既習計算の確実な習得。
・問題文をしっかり読み、「わかっていること」「きかれていること」を正確に理解すること。
・問題からわかることを図式化すること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・聞く姿勢を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けする。
・問題文を読み、「分かっている数字には○」「尋ねられていることには波線」を引くなどして、問題文をしっかり把握できるようにする。
・「既習事項を使って課題解決できないか、しっかり見通しを立てさせた上で」自分の考えをノートに書かせる。
・友達に分かるように説明するために、図などを適切に用いながら自分の考えを説明できるよう支援する。
・本時の学習で分かったことや思ったことなどをノートに書く「ふりかえり」の時間や練習問題を解く時間を確保する。
・自分の考えをグループ内で発表し合うことで、自分の考えに自信を持って発表できるようにする。

②スキルタイムでは

・基礎基本の計算プリントに取り組み、正確に速く計算できるようにする。
・「キュビナ」に取り組み、自分自身の力を確かめさせる。

③家庭学習では

・学習進度に合わせた計算問題に取り組ませる。
・自主学習で苦手な内容について繰り返し取り組むよう励ます。

④その他の時間を使って

・家庭で取り組んだプリントで間違いがあった問題は、「学校でもう一度」取り組ませる。
・理解が遅れている児童には、朝や昼休みなどに個別指導を行う。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・問題文を読み、自分なりの考えで立式をすることができる。
・自分の考えを図や絵などを使って友達に発表することができる。
・課題に粘り強く取り組み、テストなどでは空欄で出すことが少ない。

滑石小5年生　学力向上プラン（国語）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲をもって課題に取り組む児童がいるが、そうではない児童が2割程度いる。
・教科書の文章をすらすらと読むことができない児童が1割程度いる。
・教科書の文章について、内容を読み取るのに時間が掛かる児童が1割程度、正確な読み取りができない児童が3割程度いる。
・文章を書くことに苦手意識があり、個別指導を必要とする児童が3割ほどいる。
・自分の考えを発表するときに初めに結論から述べて、次に理由を挙げるなどわかりやすい発表ができる児童は半数程度いる。
・漢字学習には意欲的に取り組む児童が多いが、そうでない児童が1割程度いる。
・進んで読書に取り組む児童は少ない。

＜取り組むべき課題＞

・教科書の文章をすらすらと読むこと。
・教師や友だちの話の内容を、理解しながら聞くこと。
・ノートに自分の考えを書いたり、見やすく、メモをしながら書いたりすること。
・発表の時の声の大きさ（全員に聞こえる声で）と、いつでも自分の考えを話すこと。
・話の要点を聞き取り、相手にわかりやすく伝えること。
・文章を書くことに自信を持つこと。
・既習漢字を正しく読み書きしたり、新出漢字を習得したりすること。
・時間内、期日内に課題を仕上げ、やり遂げること。
・学年相応の読書内容を目指すとともに、分野の幅を広げること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」をできる限り子どもたちの言葉で設定する。
・自分自身の学びを振り返るために、本時の学習で分かったことや思ったことなどをノートに書く「ふりかえり」の時間を確保する。
・聞く姿勢を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けをする。
・友達の考えと自分の考えを比べながら聞くようにする。
・自分の考えをグループ内で発表し合うことで、自分の考えに自信を持って発表できるようにする。

②スキルタイムでは

・「漢字スキル確認小テスト」に取り組み、既習漢字の書き取りが身に付いているか、児童自身にも確認させる。読み書きができなかった漢字はやり直しを徹底する。
・音読の確認をする。

③家庭学習では

・漢字ドリルの手本を見ながら漢字ノートに練習するよう繰り返し指導する。
・短い物語文や説明文は、「暗唱を目指して日々の音読練習」に取り組むようにする。
・児童の自主学習の取組を学級で紹介し、「友達の取組み方でよいと思ったところを見つける」ことにより、これからの自分の学習にも生かしていくことができるようにする。

④その他の時間を使って

・新聞の中から心に残った記事についての感想を書くときに、「自分の考え（感じたこと）」「その理由」以外に、「具体例」「自分の経験談」など具体的な事象を挙げて、自分が思いを詳しく表現できるようにする。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートのきまりに沿って書くことができるようになる。
・友達と自分の考えの相違点を考えながら友達の話を聞き、発表することができるようになる。
・課題について自分の意見を結論から発表したり、理由や具体例を挙げて、詳しく表現したりすることができる。
・児童の発言で授業が進み、まとめられるようになる。
・1時間の中で、1人1回は発言することができる。

滑石小5年生　学力向上プラン（算数）

＜傾向と実態＞

・学ぶ意欲があり、学ぶ習慣を身に付けている児童と、そうでない児童の差が非常に大きい。
・既習計算の仕方を忘れていたり、できなかったりする児童が、学年で2割程度いる。
・問題文の的確な把握ができない児童が学年で3割程度いる。
・問題文把握に時間が掛かる児童が学年で２割程度いる。
・かけ算九九の習得が不十分な児童が１割程度いる。
・自分の考えを図などを使って分かりやすく伝えることは苦手な児童が多い。

＜取り組むべき課題＞

・最後まで諦めずに粘り強く学習に取り組もうとする態度や最後までやり遂げる姿勢。
・既習計算の確実な習得。
・問題文をしっかり読み、「わかっていること」「きかれていること」を正確に理解すること。
・問題からわかることを図式化すること。
・ノートに自分の考えや友達の考えを整理して見やすく書くこと。
・自分の考えを相手にわかりやすく説明すること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」をできる限り子どもたちの言葉で設定する。
・自分自身の学びを振り返るために、本時の学習で分かったことや思ったことなどをノートに書く「ふりかえり」の時間を確保する。
・聞く姿勢を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けする。
・問題文を読み、「分かっている数字には○」「尋ねられていることには波線」を引くなどして、問題文をしっかり把握できるようにする。
・既習事項を使って課題解決できないか全体で「見通し」を立て、自分の考えをノートに書かせる。
・図や数直線などを適切に用いながら自分の考えを説明できるように指導する。
・自分の考えに自信を持って発表できるようにするために、自由に離席し、友達の考えを見たり、聞いたりできるようにする。

②スキルタイムでは

・基礎基本の計算プリントに取り組み、正確に速く計算できるようにする。
・「キュビナ」に取り組み、自分自身の力を確かめさせる。

③家庭学習では

・学習進度に合わせた計算問題に取り組ませる。
・自主学習で苦手な内容について繰り返し取り組むよう励ます。

④その他の時間を使って

・家庭で取り組んだプリントで間違いがあった問題は、「学校でもう一度」取り組ませる。
・理解が遅れている児童には、朝や放課後などに個別指導を行う。

⑤目指す児童の姿

・問題文を読み、自力で立式をすることができる。
・自分の考えを図や数直線などを使って友達に発表することができる。
・課題に粘り強く取り組み、テストなどでは空欄で出さない。
・友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、違いや良さに気付くことができる。
・児童の発言で授業が進み、まとめられるようになる。
・1時間の中で、1人1回は発言することができる。

滑石小6年生　学力向上プラン（国語）

＜傾向と実態＞

・大部分の児童は学ぶ意欲がある一方、学習に対する苦手意識から、積極的に学びに向かうことが難しい児童がいる。
・文章を書くことに苦手意識があり、背中を後押しする必要がある児童が3割ほどいる。
・落ち着いて読むと、問題文の的確な把握ができるが、早とちりしてしまう児童が多い。
・問題文把握に時間を要する児童が数名いる。
・漢字学習に真面目に取り組もうとする児童がほとんどだが、習得には時間を要する。
・課題に対して、ほとんどの児童が学び合いや自力で解決しようとしている。

＜取り組むべき課題＞

・教師や友達の話の内容を、理解しながら聞くこと。
・ノートに自分の考えを書いたり、見やすく、メモをしながら書いたりすること。
・主語、述語、修飾語などを理解し、自分の伝えたいことを相手に伝わりやすい文章にすること。
・発表の時、時と場合に応じた声の大きさで自分の考えを整理して話すこと。
・話の要点を聞き取り、相手にわかりやすく伝えること。
・既習漢字を正しく読み書きしたり、新出漢字を習得したりすること。（漢字習得）
・時間内に課題を仕上げること。（主体性）

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定（できれば児童の言葉で）をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、「書いたり、全員でめあてを読んだり」する。
・学びを振り返るために、本時の学習で「分かったことや思ったことなどを書く」時間を設定する。
・聞く姿勢と反応を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けする。
・「ノートの決まり」を常時指導する。（「めあては青・まとめは赤」ではさむなど）
・友達の考えを復唱して、自分の考えに理由をつけて話すことができるような「話型指導」をする。
・自分の考えを伝える「グループ交流」を取り入れ、様々な意見を聞いて考えを深める活動を設定する。
・「キュビナ」に取り組み、自分自身の力を確かめさせる機会を増やす。

②スキルタイムでは

・キュビナで前学年も含めた文法や漢字の読み、書きの問題に取り組み、自身の課題に対して主体的に学習できるようにする。
・全体読みや一文読み、ペア読みなど様々な方法での音読をし、時と場合に応じた声の大きさを意識して読むことができるようにする。

③家庭学習では

・「漢字スキル」を活用し、漢字ノートや漢字プリントを併用しながら習熟を図る。
・音読は物語文や説明文の学習に入る前から課題に出し、単元の導入時には正確な音読ができるようにする。
・「自学」の中に、学習の振り返りを必ず書くように指導し、自分の考えを書く力を高める。

④その他の時間を使って

・他教科や学級活動など、全ての教育活動の中で、振り返りの時間を確保し、言葉や文章で表現する機会を作る。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤ではさむなど）
・友達の考えを聞いて、自分の考えに理由を付けて話すことができる。
・児童の言葉から立てためあてに沿って授業が進み、自分の言葉でまとめや振り返りを書くことができるようになる。

滑石小6年生　学力向上プラン（算数）

＜傾向と実態＞

・大部分の児童は学ぶ意欲がある一方、学習に対する苦手意識から、積極的に学びに向かうことが難しい児童がいる。
・既習内容が定着しておらず、問題解決が困難な児童が2割程度いる。
・問題文を正確に読み取ることが難しく、立式につまずく児童が多い。
・・課題に対して、ほとんどの児童が学び合いや自力で解決しようとしている。

＜取り組むべき課題＞

・最後まで諦めずに粘り強く学習に取り組み、課題に取り組むこと。
・ノートに自分の考えを書いたり、途中の計算や線分図などの図を使って解いたりすること。
・自分の考えを相手にわかりやすく説明すること。
・教師や友達の話の内容を、理解し、反応しながら聞くこと。
・既習計算の確実な習得をすること。
・問題文をしっかり読み、何について答えるのかきちんと理解すること。

＜課題の解決策＞

①授業では

・「授業開始の3人発表」により、「前時の振り返り」と「本時の学習予定」を把握させる。
・「まとめ」に向かう「めあて」の設定（できれば児童の言葉で）をする。
・クラス全員がめあてを共有するために、書いたり、全員でめあてを読んだりする。
・学びを振り返るために、本時の学習で分かったことや思ったことなどをまとめる時間を設定する。
・聞く姿勢と反応を常時指導し、人の話を最後までしっかり聞くよう意識付けする。
・「ノートの決まり」を常時指導する。（「めあては青・まとめは赤」ではさむなど）
・問題文を読み、「分かっていることには線」「尋ねられていることには波線」を引いて問題文をしっかり把握できるようにし、全体で問題把握をする。
・既習事項を使って課題解決できないか全体で「見通し」を立て、自力解決につなげる。
・友達に分かるように説明するために、「はじめに・次に」などの言葉を使って自分の考えを整理して説明し合う学び合いタイムを設定する。
・自分の考えを、図や数直線を指し示しながら、関連して説明できるようにする。
・教科書の練習問題が終わった児童は「キュビナ」に取り組み、習熟に努める。

②スキルタイムでは

・キュビナで前学年も含めた計算や文章問題に取り組み、自身の課題に対して主体的に学習できるようにする。

③家庭学習では

・学校で学習したことを家庭で復習する習慣を付けるために、学習進度に合わせた「算数プリント」や「キュビナ」を毎日出し、学習内容の定着を図る。

④その他の時間を使って

・低位の児童には「少人数指導」を行ったり、昼休みなどの時間を使って「個別指導」したりする。

⑤目指す児童の姿

・授業開始とともに、学級全員の挙手による3人発表ができるようになる。
・教師からの指示がなくても、ノートの決まりに沿って書くことができるようになる。（めあては青・まとめは赤ではさむなど）
・自分の考えや解いた方法を言葉や図などを使って説明することができるようにする。
・友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、違いや良さに気付くことができる。
・児童の言葉から立てためあてに沿って授業が進み、自分の言葉でまとめや振り返りを書くことができるようになる。